

紛争後社会における「家族」と国家

—ルワンダ農村部における孤児のケアに着目して—

平成 22 年入学

参加したフィールドスクール：ナミビアフィールドスクール

調査地（調査国）：ルワンダ共和国

近藤有希子

キーワード：家族，孤児，ケア，境界，国家

自分の研究テーマについて

1990 年代のサブサハラ・アフリカでは深刻な武力紛争が頻発したが、ルワンダでも 1990~1994 年にかけて起きた内戦と虐殺の過程で多くの孤児が生み出された。一方、他のアフリカ諸国同様、ルワンダにおける孤児は HIV/AIDS によっても生み出されている。7-15 歳の子どもの 51.5%は、両親ないし一方の親がいないという報告もある。

報告者を受け入れてくれた「家族」も、夫を亡くし、自分の子を育て終わった高齢の女性が、エイズで両親や兄弟を失った孤児 3 人を引き取り、一緒に暮らしている。この「家族」の中で、老女と子どもたちが「家族」の境界をどう認識しているかを、彼らの生活実践の分析を通して明らかにすることが本研究の目的である。ここで「家族の境界」とは、当事者が自らの価値や規範に依拠してどの人々までを「家族」の範囲に含めているのか、という内容を意味している。ルワンダの孤児に対しては、国際機関や NGO が多くの援助を行っている。それに対して本研究では、ルワンダの人々自身による孤児の受け入れシステムを明らかにすることを通して、紛争後社会に生きる人々がいかに相互のケアを行っているのか、またそれに伴い彼らの「家族」観がいかに変容しつつあるのかを検討する。

また家族は決して「自然」なものではなく、国家の政策から影響を受けながらその枠組みが定められる側面を有する。その意味で、家族は「政治的な諸制度」のひとつとして考えることができよう。本研究では、紛争後社会において国家が「家族」をどう捉えているのか、また「家族」の側が国家をどのような存在として認識しているのかについても分析を進める。

フィールドスクールから得られた知見について

本プログラムで有意義だった点は、地域の植生や地形、そしてそれらの調査法に関する知識を得られたことに加えて、人間が如何に自然と密接な関係を築きながら暮らしているのかを知ることができた点にあると思う。ルワンダに入ってすぐの頃、私は不注意な自分の言葉で、現地の秩序のようなものを乱してしまうことを恐れて、無口でいることが多かった。しかししばらくして、村の子どもたちに、家のすぐ横に植えられているインゲンやバナナのことを訊いてみると、その種類を学校で勉強したわけでもないのにいくつも教えてくれ、会話をするきっかけとなった。

一方で改善点としては、現地に入ったときの自分のフィールドへの影響力を共に考えてみる、という機会が欲しかったことだ。ルワンダにいたとき常々考えていたことは、*umuzungu*（白人、黒くない人）

の影響力である。ルワンダには内戦後、多くの国際機関や NGO、そして私のような学生や研究者が援助や調査のために入っており、彼らと現地の人々の間でトラブルが発生していることも耳にした。私はそのようなトラブルこそ経験しなかったものの、いつまでも続く「お客さん」扱いにどう対応してよいのか最後までわからなかった。調査する側とされる側との関係のあり方は、私自身が現地の人と折衝する中で発見していくしかない類のものであると思う。同時に、それはひとりでフィールドに滞在しているときには話す相手がいない問題だからこそ、フィールドスクール場で他の参加者と議論できる機会があればよかったと感じる。

フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマに生かせるか？

ナミビアは 1990 年に独立したばかりの国である。また 1994 年には、ナミビアを「不法に」占領していた南アフリカ共和国において白人政権が終わる。同年にルワンダでは虐殺が起こったわけだが、ルワンダを調査するに当たり、私はルワンダのことばかりに目を向け、このような大きな出来事が同じアフリカ大陸で起こっていたということに無自覚であった。

フィールドスクールを通して、「独立」と「虐殺」とではその形はあまりに違うものの、人々の爆発するようなエネルギーが発されていた時代として、私はこの時期の世界についてもう少し知りたいし、知るべきであると感じた。ナミビアという国を自分の足で歩く中で日々感じていたことは、同時代的に何が起きているのか、常に自覚的でいたいという思いである。広く、世界史の中にルワンダを位置付け、更には日本や、そして自分とどうつながっている問題なのかということ、切に考えていきたい。



写真 1：ナミビア，黒人居住区カトゥトゥラ



写真 2：ナミビア，子どもの目線で撮られた写真



写真3：ルワンダ，細部まで耕された丘が続く

写真4：ルワンダ，子どもたちの仕事の水汲み

